

目次



感染症予防策	木戸口公一	1
現代医療シリーズ RS ウイルス感染とシナジス	佐野 博之	2
ことばいろいろ コメディカルスタッフ	村上 育生	2
各科紹介 小児循環器科	萱谷 太	3
ボランティア活動紹介 3 学生ボランティア	香西摩矢子	4



感染症予防策



暖冬予測に反して今年北極に居座る寒気団の勢力は衰えることなく、北からの寒風が大阪の地にも吹き込んできています。感染症のパターンもすっかり冬型になっています。この冬型感染症には、ウイルス性胃腸炎（ノロ・ロタ）、呼吸器系にはRSウイルス、A型溶連菌感染症があり、さらにインフルエンザ、水痘が加わります。残念ながらそれぞれに完璧な感染予防策はありませんが、感染経路別にいくつかの病気を取り上げその対策を考えてみましょう。

ウイルス性胃腸炎（ノロ）：接触感染+飛沫（空気）感染

ネーミングからのイメージとは裏腹に電光石火、集団生活域で拡がるのがこのウイルスの特徴です。平成14年国際ウイルス学会で従来の小型球形ウイルス（SRSV）の二種類が正式にノロとサポウイルス（サッポロ由来）に命名されました。感染経路は経口感染で、（1）汚染された二枚貝の生食、（2）感染食品取扱者、汚染調理器具を介した食品の経口摂取、（3）患者の糞便・吐物からの2次感染（接触あるいは乾燥物の吸入）が考えられます。下水浄化装置を潜り抜けたウイルスは河川水が流れ込んだ湾で養殖される牡蠣等の中腸腺で捕捉濃縮されます。牡蠣は他の二枚貝に比べて生食（半生調理）する機会が多く、しかも貝の排泄運動が低下する1~2月になるほど感染機会が増えるようです。牡蠣の生食は年が明けると控えるのが望ましいでしょう。重症化することはない2日程度で軽快しますが、100個ほどで発症するといわれ、糞便1mg

程度で感染成立するようです。厳重な手洗いと、マスクを含めて患者に接する注意が必要です。

水痘ウイルス（Varicella-Zoster VZV）：空気感染

毎年12月から初夏にかけて流行します。ヘルペスウイルス（現在8種類）群に属し、他のヘルペスウイルスと同様初感染（水疱瘡）の後知覚神経節に潜伏持続感染しています。通常空気中に漂う飛沫核を吸い込んで気道粘膜から侵入し、感染後4~6日で一次ウイルス血症にて全身に広がり、約2週間の潜伏期を経て二次ウイルス血症となり発疹をきたします。発疹出現1~2日前から痂皮化するまで伝染力があります。ワクチン接種が予防手段、アシクロビル内服が治療薬ですが、接触者は発症予測一週間前からアシクロビル内服で発症予防あるいは軽症化が図られます。合併症は15歳以上あるいは1歳以下で多くみられ、インフルエンザと同様にアスピリン、ジクロフェナクナトリウムという解熱剤の併用は原則禁忌です。

インフルエンザ：飛沫感染。時に空気感染

急激な高熱と頭痛、関節・筋肉痛を特徴とします。センター職員は積極的にワクチン接種を受けていますが、残念ながらこの予防効果は100%ではありません。治療薬（商品名タミフル）を予防薬として服用する方法もありますが、その適応にはさまざまな条件があります。安易な服用は耐性ウイルスの出現をきたします。患者のマスク着用はウイルスを飛散させないためにもマナーとして重要です。

いずれの感染症も手洗い、マスク着用が一般的な予防策です。冬籠りの今、一人ひとりの注意が拡大を抑止します。

（企画調査部長、産業医 木戸口 公一）





【現代医療シリーズ】RSウイルス感染とシナジス®

＜RS ウイルスとは＞

生後2歳までにほとんどのお子さんがかかると言われる小児の代表的な呼吸器感染症の病原体です。普通は「かぜ」で済んでしまうものですが、早産のお子さん達は、お母さんからRSウイルスの抗体を十分に受け継いでいないなどの理由のため、「細気管支炎」や「肺炎」などの重篤な呼吸器感染症になり、呼吸困難がみられることがあります。慢性肺疾患・循環器疾患のお子さんも同様に重篤化する可能性があります。

＜RS ウイルス感染症の重篤化を抑制する注射 (シナジス®) について＞

上記のRSウイルスに対する「抗体」を注射することで、免疫力を高め、感染の重篤化を防止することができます。ただし、感染を完全に防げるわけではなく、重篤化を防ぐためのものです。

この注射の副反応としては、重篤なものはほとんど見られていません。

＜投与可能なお子さん＞

以下に該当するお子さんで、ご家族が希望されれば接種可能です。

この注射は患者さんのご家族の方のご意志で行うものですから、強制ではありません。

1. 在胎期間28週以下の早産で、12ヵ月齢以下の新生児および乳児
2. 在胎期間29週～35週の早産で、6ヵ月齢以下の新生児および乳児
3. 過去6ヵ月以内に気管支肺異形成症(BPD)の治療を受けた24ヵ月齢以下の新生児、乳児および幼児
4. 24ヵ月齢以下の血行動態に異常のある先天性心疾患(CHD)の新生児、乳児及び幼児

＜投与方法＞

冬から春のウイルス流行期(10～11月頃から3～4月頃)に合わせて、退院直前から以後外来で、月1回



太ももに筋肉注射します。予防接種とは異なるため、一般の予防接種と並行して接種可能です。また、発熱時でも接種可能です。

＜費用＞

健康保険の適応を受けていますので、一般的には自己負担を含め費用は保険でまかなわれますが、居住されている市・発行されている保険証によって異なります。
(新生児科 佐野 博之)

ことばいろいろ

コメディカルスタッフ (co medical staff)

医師以外の医療従事者の総称で、看護師の他、薬剤師、検査技師、放射線技師等々その職種は20種を超えます。以前はパラメディカルスタッフと呼ばれていましたが、今日では「医療共同従事者」を意味するコメディカルスタッフという呼称が広く用いられるようになりました。病院では看護師以外は制服である白衣を着ていますが、近々当センターでは看護師以外のコメディカルスタッフの白衣を、子供に恐怖心を与えないものに変える予定です。



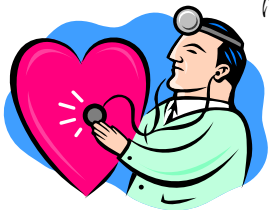
(放射線科 村上 育生)



【各科紹介】小児循環器科を紹介します

小児循環器科は主に先天性心疾患を中心に診療を行っています。心臓の形に異常がある子供たちは生まれてすぐに重い症状を呈することがあり、24時間体制で入院を受け容れています。病気の診断は超音波検査・CT検査・心臓カテーテル検査など高度な診断装置と技術を駆使して行い、心臓血管外科と連携して治療方針を決定しています。その他、川崎病や心筋疾患（心筋炎・心筋症）、不整脈などについて

は地域医療機関や大阪大学と連携して診療を行っています。次に私たちが力を入れている分野について紹介しましょう。



【胎児診断】

重症な心臓病は胎児期に診断されている方が生後の変化に備えることができるため、胎児診断には積極的に取り組んできました。地域の医療機関から胎児心エコー検査の実地修練生を受け入れており、その成果で心臓病の胎児紹介例が増加しています。新生児緊急入院の中で胎児診断がついている割合（胎児診断占有率）は最近では50%近くまで向上しており、これは全国のこども病院の中でも最先端の成績です。

【カテーテルインターベンション：心カテ治療】

カテーテルとは太さ2mm程度の特種な管ですが、これを足の付け根の太い血管から心臓の中まですすめて行う検査のことを心臓カテーテル検査と呼んでいます。インターベンションとは手術によらない治療介入のことで、カテーテル検査室で治療用に開発された特種なカテーテルや器具を使用して病気の治療を行っています。代表的なものにはバルーンカテーテルを用いた肺動脈弁・大動脈弁の弁形成術、肺動脈・大動脈など大血管の狭い病変に対する拡張術や、特種なコイルを用いて動脈管や不要な血管を詰

めてしまう血管塞栓術、ステント留置術などがあります。

欧米では心房中隔欠損という病気の多くがアンブレラツァー・デバイスという特種な装置を用いてカテーテルで治療されています。昨年この装置の使用がようやく日本でも認可されました。ただしこの装置を使用するためには厳しい施設基準が設けられており、この施設認定を得ることが当面の目標です。

【成人期以降の問題】

こうして治療を受け元気になられた方の中には成人期を迎える人も出てきました。高血圧や不整脈など成人と共通の問題点を残しながら元気に過ごしておられる方は、今後は循環器内科の先生にバトンタッチすることが可能です。しかし小児特有の複雑な心疾患に伴う問題点がある方は、内科の先生に全面的にバトンタッチすることができません。循環器の小児科医と内科医が協力して診療にあたるような体制作りが必要です。

【外来】

小児循環器科は常勤医4人体制となって10年経ちますが、この間に患者さんは1700人から2600人と1.5倍に増加しました。それにつれて外来検査（レントゲン・心電図・心臓超音波検査など）件数も増加し、待ち時間が大幅に長くなりご迷惑をおかけしております。すべての方に検査実施から結果説明までを1日で終わらせる現在の体制では無理が生じており、今後改善策を講じて参ります。具体的には小児循環器を専門とする医師との病診連携をすすめること、心臓超音波検査に予約制を導入することなどを検討しております。待ち時間の少ない快適な外来診療を回復するために、皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

（小児循環器科部長 萱谷 太）





学生ボランティア

It is Our Spirit! -To Be with You- To Enjoy with You.

(子どもに寄り添い。子どもと楽しむ。それが私たちの想いです。)

この言葉を合言葉に学生ボランティアがセンターで活動をはじめて今年で11年目になります。今では、桃山学院大学と神戸女学院大学の学生が登録して頑張ってくれています。嬉しいことに、昨年度桃山学院大学の学生ボランティアがドナルド・マクドナルド・ハウス財団のボランティア活動助成を受賞され、受賞金の一部でたくさんのおもちゃの寄贈をいただきました。

学生ボランティアは、主治医やご家族から利用の申し込みのあった入院している子どもにマンツーマンで遊びや学習などの相手をしています。子どもにとって「自分だけの遊び相手が病室を訪ねてくれる」ことはとても嬉しいらしく、活動日を心待ちにしてくれているようです。また、スタッフやご家族からも若い学生の活躍に喜んでもらっています。

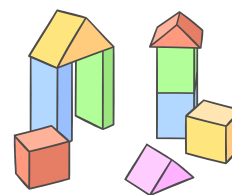
学生ボランティアの活動日、「今日はこれをして遊ぼう」子どもたちは自分で考えて自分のしたい遊びの世界に学生を誘い出します。



折り紙をしたい子ども・・・

好きなテレビドラマについて話をしたい子ども・・・

自分のお気に入りのおもちゃで遊びたい子ども・・・



子どもたちのしたいことは様々です。

学生の活動記録からは、子どもたちとの楽しい時間が伺えます。

「〇〇のビデオを見ている時、Aちゃんが、かわいい、かわいい、と言っていました。かわいいと思える心があって、ほのぼのと感じ、私もやさしい気持ちになれました。」

「C君が外へ出ようと言ったので、グローブを新聞紙で作り、外へキャッチボールに出かけました。C君はとても素直でやさしい心の持ち主でした。」

これからも、子どもたちと学生のすてきな時間をつくれるようお手伝いしていきたいと思えます。

(医療相談室 香西 摩矢子)

ほのぼのコンサートのお知らせ

と き：2月24日(金)

午後3時～4時30分

ところ：玄関ホール

大阪府立母子保健総合医療センター

基本理念

周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。

患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。

地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。

母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

